

# 地球科学輻合ゼミナール

## (2009年度 後期 第12回)のご案内

「変動地形からみたフィリピン海プレート西縁の海溝型  
巨大地震像」

堤 浩之 (理学研究科 地球物理学教室)

海溝型巨大地震の発生間隔や規模の予測のためには、発生履歴に関するデータが不可欠である。過去の海水準に対応して形成され、その後の地震隆起で離水した海成地形（ベンチ・ノッチ・浜堤・サンゴ礁など）は、過去の地震時および地震間の地殻変動を記録している。そのような離水地形の分布や高度、および離水年代を調べることで、過去の海溝型巨大地震の発生年代や地殻変動パターンを明らかにすることができる。

本発表では、過去の海溝型巨大地震の時期や規模の解読法を、フィリピン海プレート西縁に位置する南海トラフ・琉球海溝・マニラ海溝・フィリピン海溝を例に解説し、またこれらの沈み込み帯で発生する巨大地震像についての現在の知見をまとめる。特に、現在我々の研究グループが進めているフィリピン海溝・マニラ海溝の巨大地震発生ポテンシャル研究の予察的結果を紹介したい。

1月21日(水)午後4:30～午後6:00

場所：理学研究科6号館 201号室